

所在地：函館市臼尻町340-1ほか

発掘原因：臼尻漁港臨港道路建設工事

発掘面積：1,093m<sup>2</sup>（Ⅲ層）、671m<sup>2</sup>（Ⅴ層）

発掘期間：令和3年7月1日～令和3年12月2日

調査主体：函館市教育委員会

調査実施：一般財団法人 道南歴史文化振興財団

担当者：函館市教育委員会 福田 裕二、小林 貢

調査者：(一財)道南歴史文化振興財団 黒沢 健明（調査担当者）

## 調査の概要

臼尻小学校遺跡は、函館市臼尻町に所在する臼尻漁港西隣へと注ぐ無名小河川の上流、海岸線からの直線距離約300m、標高約30～35mの小河川左岸の海岸段丘上緩傾斜地に位置している。無名小河川は本調査区から上流部は現道下に埋没しているものとみられる。また、本調査区内で広範囲がコンクリートで覆われているが湧水地点が確認され、無名小河川との合流部にはかつて使用されていたコンクリート製の取水施設が設けられている。現在でもこの取水施設からは小河川を形成するに足る豊富な水が涌出している。

昭和44年に臼尻小学校改築中にストーンサークルが発見・調査された場所は本調査区から約200m離れた標高約50mの現臼尻小学校校舎のある地点で、そのさらに裏手の国道278号の通る標高約60～70mの地点が平成16・17・19年に調査されている。

Ⅲ層とⅤ層の概要を以下に記すが、この他に火山灰層であるⅣ層中でKo-fとKo-g間の腐植土層（Ⅳb層）上面から縄文前期前半とみられる土器のまとまりを確認し、そのすぐ傍から剥片集中を1ヵ所確認している。

## Ⅲ層調査

Ⅲ層の調査は1,093 m<sup>2</sup>について行った。検出した遺構は、竪穴建物跡12軒、竪穴状遺構1基、土坑38基、焼土7ヵ所、剥片集中1ヵ所である。竪穴建物跡は中期後半が2軒、後期前葉が1軒、晩期が1軒で他は後期中葉とみられる。各期を通じて湧水地点を囲むように山側の標高の高い地点に分布するものとみられる。土坑は晩期とみられる小土坑が多く、覆土内に大礫を埋めるタイプが目立つ。他に中期とみられる周溝を伴う土坑、後期とみられる隅丸長方形の土坑墓と考えられるものもある。

遺物は調査区のほぼ全域にみられるが、調査区北端の沢状に大きく窪む傾斜面で捨て場とみられる遺物廃棄域から多量に出土している。土器は縄文中期（サイベ沢Ⅴ・Ⅵ式・大安在B式）、後期（トリサキ式、大津式、鮎瀬式）、晩期（大洞C2式）が出土している。主体となるのは後期中葉の鮎瀬式と晩期の大洞C2式で、遺物廃棄域からの出土もこの2型式が大半で特に晩期が極めて多く、特徴的なものとしては晩期の土偶が出土している。石器類は石鏃や石槍、スクレイパーのほか、石斧、擦切残片、石鋸、擦石や石皿などが出土した。遺物廃棄域からは剥片・細片の出土が多く、特徴的なものとしては有孔石の出土が目立つ。この他、遺物廃棄域からは獣魚骨や貝類の局所的な廃棄がみられ、保存状態はそれほど良くないが、ほ乳類では鹿とみられるものが確認され、貝類ではタマキビ類やムラサキインコとみられるものが主体的であった。これらの食糧残滓とみられるものの中からは骨製のかんざしや鯨類の椎間板も出土している。この椎間板には2つの穴が開いており、仮面的な製品である可能性もある。遺物総数は約80,000点である。

## Ⅴ層調査

Ⅴ層の調査は山側の標高の高い範囲を中心に671 m<sup>2</sup>について行った。検出した遺構は焼土6ヵ所、剥片集中2ヵ所である。

遺物は約 3,500 点出土し、標高の高い平坦面で多い。土器はムシリⅠ式や東釧路Ⅳ式が出土している。石器は石鏃、スクレイパーのほか、石錘、擦石、石皿などが出土している。擦石と石皿は北側の平坦面で近接して出土する傾向がみられた。

白尻小学校遺跡 III 層遺構配置概略図

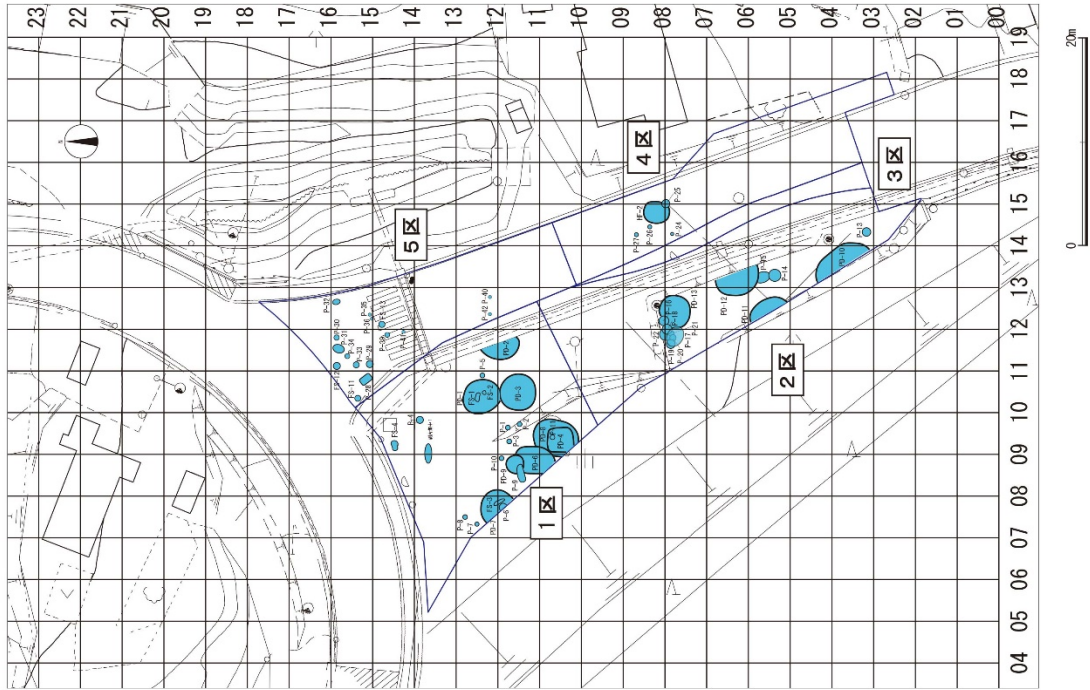


図 1 III 層遺構配置概略

白尻小学校遺跡 V 層遺構配置概略図

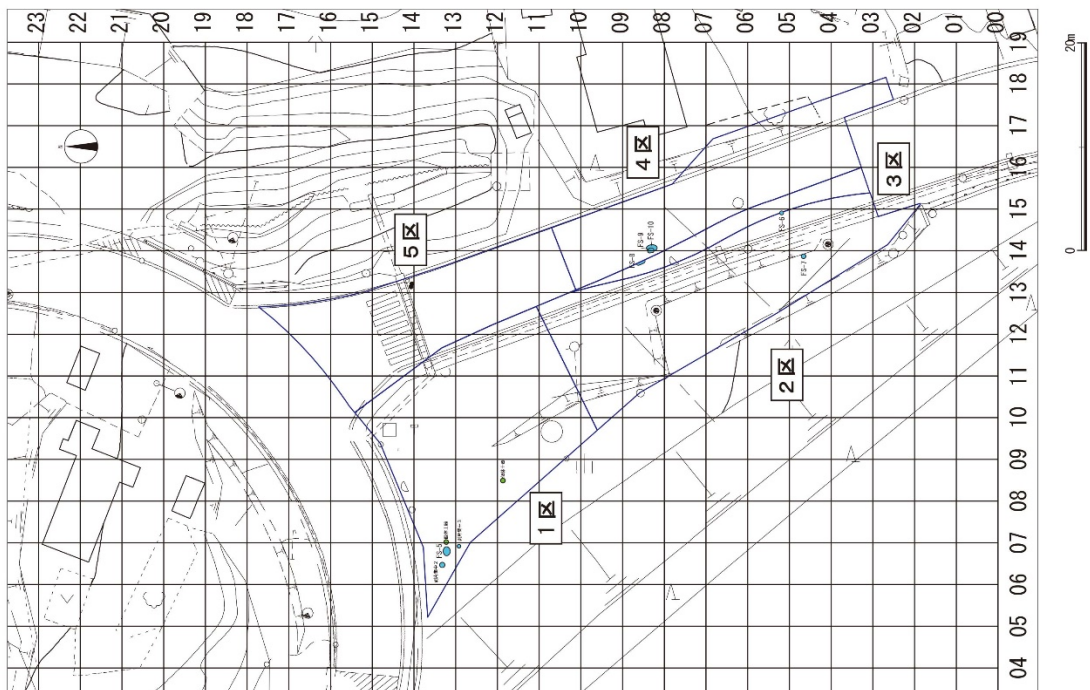


図 2 V 層遺構配置概略





調査区遠景（北西から）



1区Ⅲ層完掘状況（東から）



2区Ⅲ層完掘状況（北東から）



3区Ⅲ層完掘状況（南から）



4区Ⅲ層完掘状況（東から）



5区Ⅲ層完掘状況（東から）



1区Ⅲ層鯨椎間板検出状況



1区Ⅲ層貝層断面





1区Ⅲ層遺物出土状況①



1区Ⅲ層遺物出土状況②



1区Ⅲ層遺物出土状況③



5区Ⅳb層土器出土状況



5区Ⅳb層剥片集中検出状況



1区Ⅴ層完掘状況（南東から）



2区Ⅴ層完掘状況（北から）



F S - 5 検出状況（1区Ⅴ層）